

2019年9月27日
イオンタウン株式会社
マックスバリュ東海株式会社

イオンタウン四日市泊 10月12日(土)「イオン ふるさとの森づくり」植樹祭 およびイオン社会福祉基金 福祉車両贈呈式を開催

イオンタウン株式会社（本社：千葉県千葉市、代表取締役社長 加藤 久誠）は、2019年11月開店予定の「イオンタウン四日市泊（以下、当SC）」オープンに先立ち、来る10月12日（土）に同敷地内にて「イオン ふるさとの森づくり」植樹祭を開催します。

「イオン ふるさとの森づくり」植樹祭は、ショッピングセンター（以下、SC）が緑につつまれ地域環境にとけ込んだ場所になること、さらに緑を育む心が日本全国へ、そして海外へと広がっていくことを願い、新設するSCの敷地内に、その地域に自生する「ふるさとの木」の苗木を、地域の皆さまとともに植えて大切に育てていく活動です。

当日は、地域のお住まいの皆さま約1,000名にご参加いただき、四日市市の市木であるクスノキをはじめ、ヒサカキ、アラカシ、タブノキ、ヤブツバキなど、地域に自生する樹木を中心に、約34種10,000本を植樹します。

また、グループ各社が加盟・運営するイオン社会福祉基金は、福祉車両を1台贈呈し、社会福祉法人「永甲会 障がい者支援施設エビノ園」の送迎車両としてご利用いただきます。同日に、贈呈式を下記の通り行います。

記

■全体概要

1. 日時： 2019年10月12日(土) 9:45～12:00（予定）
※少雨決行・悪天候の場合は10月26日（土）に延期
2. 場所： イオンタウン四日市泊敷地内
（住所：三重県四日市市泊小柳町4番5-1号）
3. 「イオン ふるさとの森づくり」植樹祭について
 - ① 次第：10:00 主催者挨拶 イオンタウン（株）代表取締役社長 加藤 久誠
ご来賓代表挨拶
植樹方法の説明
10:30 植樹
12:00 終了予定
 - ② 植樹本数： 10,000本（地域に自生する樹木を中心に選定）
 - ③ 植樹種類：【常緑低木種】ヒサカキ、シャリンバイ、マサキ、ヤブツバキ、アセビ
【高木種】クスノキ、アラカシ、タブノキ などを中心に計34種
4. 「福祉車両」贈呈式について（9:45～10:00）
 - ① 贈呈先： 社会福祉法人「永甲会 障がい者支援施設エビノ園」
 - ② 贈呈車両： 日産キャラバンチェアキャブ10人乗り
 - ③ 贈呈者挨拶： マックスバリュ東海(株) 代表取締役会長 鈴木 芳知
 - ④ ご出席者： 社会福祉法人永甲会 会長 永田 正己様・理事長 秦 一正様 他
以上

ご 参 考

イオンふるさとの森づくり

「ふるさとの木」の植樹による「イオンふるさとの森づくり」は、1991年にイオンマレーシアのマラッカ店（マレーシア）からはじまり、国内では1992年4月にジャスコ新久居店（三重県）で最初の実施しています。以来今日まで継続しており、本年度には、「イオン ふるさとの森づくり」と公益財団法人イオン環境財団による植樹を通じて植えた木々は合計1,193万本（2019年2月末）を超えています。イオンは、地域の一員として緑あふれる街づくりに貢献するため、これからも木を植えてまいります。

イオン社会福祉基金

イオン社会福祉基金は、イオングループの92社が加盟し、グループの労使が協調して地域社会へ奉仕するという理念のもと、障がい者の自立と社会活動への参加を促進し、障がい者の福祉の向上に貢献することを目的に1977年9月に設立されました。

同基金にはイオングループ92社、約69,000人（2019年3月現在）が加入しており、労使双方がそれぞれ従業員一人あたり毎月50円ずつ（労使合計で100円）を積み立てて運営しています。毎年、障がい者の方々の社会活動への参加支援として、イオンの従業員が手作りのイベントを開催するボランティア活動や、福祉車両の贈呈などの活動を行っています。

イオン社会福祉基金は2006年より各地の障がい者福祉施設に対し、多くの方々にご利用いただけることを願い、福祉車両を毎年寄贈しています。これまで贈呈した福祉車両はこの度を含め延べ100台となります。

社会福祉法人永甲会 障がい者支援施設エビノ園

障がい者支援施設エビノ園は、入園する障がい者ひとりひとりが、その能力や適性に応じて、自立し、生きがいのある日常生活を営めることを目的として運営されています。

【本件に関するお問い合わせ先】

イオンタウン株式会社 CC推進部 広報担当 TEL：043-212-6307